

令和2年度ふるさと創生NPO活動応援事業補助事業 ～研修事業に関するアンケートの考察～

2021. 3. 8

NPO法人大分県協育アドバイザーネット

【研修・交流会】

＜別府市教育委員会実施＞

①1月15日（金） コーディネーター対象（13名）

②2月3日（水） 教育委員会職員対象（16名）

＜玖珠町教育委員会実施＞

① 2月22日（月） 学校運営協議会委員・コーディネーター（22名）

＜全県対象研修会＞

「地域発活力・発展・安心デザイン実践交流会」（R3年2月27日：参加者：62名）

【研修の成果】

新型コロナの関係で、研修会等の実施、研修会の小規模化等のために直接の参加者は少なかったが、本事業では、その中身に関する取組へのアドバイスによって、課題への対応が進み始めるという効果を目指して研修会等を実施した。参加者へのアンケートによる70%以上の効果を目標測定値として以下の観点を設定した。対象者別のアンケートで、全ての分野の参加者から「一歩前進（複数前進）の学びがあった」がほとんどで、「これからの取組の学びがあった」「これまでの取組で良いことが分かった」等の回答を含めて、100%の効果があった。

①「学校運営の基本方針を承認する」ことについて、学校運営協議会委員の重要性と責任等について意識できたか。

「意識できた」：100%（アンケート数：10）

②教職員が主体的にコミュニティ・スクールの運営に関わる意識ができたか。

「意識できた」：100%（アンケート数：11）

③コーディネーター（地域学校協働本部）の役割と体制の整備について、既存の青少年育成の組織団体、首長部局が所管する組織団体等との連携・協働の検討を行う必要性を意識ができたか。

「意識できた」：100%（アンケート数：18）

④教育委員会内においてコミュニティ・スクールの関係者と地域学校協働本部の関係者との情報共有と相互理解の必要性を意識ができたか。

「意識できた」：100%（アンケート数：11）

※それぞれの立場の参加者が、今後の活動（取組）についての学びに関する総合的なアンケート結果（アンケート数：50） 「学びがあった」：100%

【事業の継続】

コミュニティ・スクールの導入（学校運営協議会の設置）と、地域学校協働本部の整備、さらに2つの取組の一体的な推進による「地域とともにある学校づくり」は、教育行政として最重要課題であることは感じている。今回の取組から「それぞれの立場の相互理解、協働の必要性を具体的に認識できた。」ことが分かる。よって、新型コロナの収束に沿って、今回作成した資料を活用して多くの関係者への草の根的なコンサルティング活動を継続していきたいと考えている。

【研修アンケートの集計】

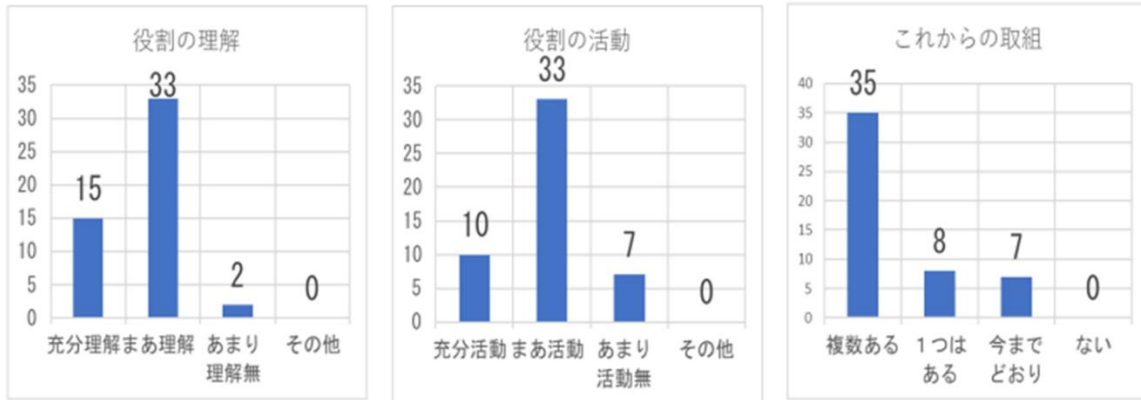
以下、コーディネーター、学校運営協議会、教職員、教育行政職員毎の集計と、トータルの集計を示すと共に、それぞれの立場からの研修会参加を通しての感想を紹介することとします。この資料からも研修の成果と、今後の具体的な取組の方向性を整理できると考えています。

また、研修会を通して話題になった、教職員が抱えている安全安心な学校生活、ITを活用した授業への支援、子ども達の生きた学び等について、地域住民や保護者が出来ることを整理して紹介することも求められているのではないのでしょうか。

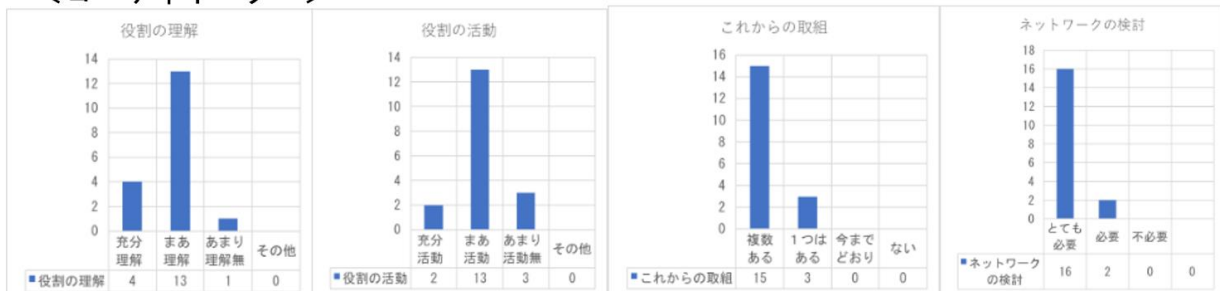
＜アンケート総回収（50）から見た研修の成果＞

研修会の参加者は一定の関心と取組を行っている者であり、今回の研修への参加によって①これから取組内容が複数あった（70%）②1つはあった（16%）で合計86%が新たな取組を学ぶことが出来た。③14%の参加者はこれまでの取組の重要性を確認できた。

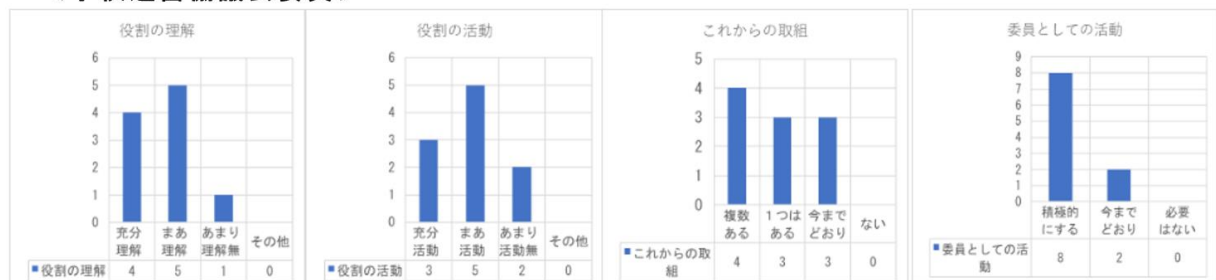
研修会に参加しない多くの関係者は役割の理解や活動がされていないこと、今後の取組について無関心等が充分考えられる。そうした関係者への研修機会の重要性も感じる事ができた。



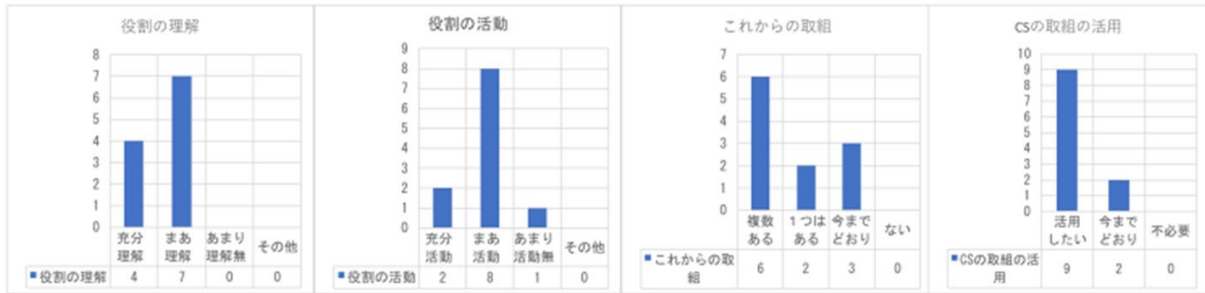
＜コーディネーター＞



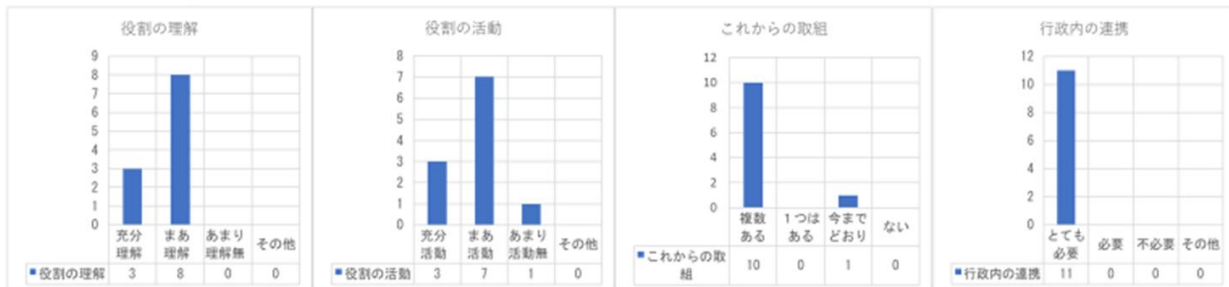
＜学校運営協議会委員＞



<教職員>



<教育行政職員>



<コーディネーターの方の感想>

- 学校運営協議会の医員の方にも研修を受けていただきたいと思いました。
- 青少年育成組織団体、自治会や商工会議所等とのつながりに力を入れ、地域の情報の収集をしていく必要を感じました。
- 地域の人たちがみんな学校支援の情報を広く共有できるように、又、たくさんの方が参加できる支援があり、一部の固定された人材だけの支援活動になることを避けたいと思います。
- 地域住民がどんな特技があるのか教えてもらって人材バンクを作りたい。地域住民がどんな支援だったら可能なのかを調べて、学校からの依頼があった時に、すぐ対応できたらいいなあと思います。
- 地域の青少年育成に関する組織団体を把握すること、現状にある地域のボランティアメンバー等の人材名簿のアップと、新規メンバーの登録を行いたいと思います。このためには、必要な人材の要件を学校とコーディネーターとで打ち合わせたいと思います。
- 現状、コーディネーターとしてコミュニティ・スクールには参加していませんが、学校支援の学校からの要請も公民館へはほとんど皆無です。まずは、学校運営協議会との積極的な連携や、公民館利用者・団体への働きかけをしたいと思います。また、広報活動を充実させながら、より深いネットワークを形成して人材発掘をしていきたいと思います。まずは足下から！
- 「学ぶことが沢山ありすぎてどうしよう！」という感じです。基本的にはCSのあり方を教職員に徹底し、多くの教職員がコーディネーターを利用してくれるように情宣活動するのが一番だと思います。学校運営協議会と地域学校協働活動とをタイアップしてドンドン前に！

<学校運営協議会委員の方の感想>

- 別府の学校運営協議会での取組例（ビデオ）はとても参考になりました。これほど学校運営協議

会の中に地域学校挙移動活動の取組のことが話題に上がるなんて！。支援できるプログラム作りが参考になりました。

○学校運営協議会に対して学校からの何をして欲しいのかの提案が必要と思います。何をして欲しいのか。出来るものと出来ないものがあるので、そこは話し合いで決めて欲しいと思います。

○地域住民・団体による穏やかなネットワークがとても重要だと考えます。将来のまちづくりを担う青少年の育成は自治体・住民が担うことが大切です。ふるさとを誇りに思えるような子どもを育てたいと思います。

○学校運営協議会の充実が必要と思います。委員が回り番で受けたり、頼まれて委員になったりしている人が多く、積極的な意見が出ません。委員としての役割を認識できる学校運営協議会にしたいと思います。形だけの協議会であってはならない。委員の選任は慎重にして欲しいと思います。

○学校だけ、地域だけでなく、両者の活動がかみ合うことの大切さを再確認できました。学校運営協議会委員として1年に1回は研修する必要があることがよく分かりました。

<教職員の方の感想>

○教職員の働き改革を後押ししていただける講演で元気をいただいた気がしました。ただ、地域は田舎なので学校運営協議会開催時間が19:00~などの夜間なので、そこは負担になります。また、PTAの事務局も教頭が担っていて、各専門部の取組も教職員が主になっている状況です。やれば負担が増えるのは悲しい現状です。

○学校での活動にもっと地域の方の参加をお願いするために、コーディネーターの方とよく相談して、他の職員へも理解してもらうことが必要だと思いました。

○地域学校協働本部と学校運営協議会との連携について、今後より一層仕組み作りや体制づくりをしていく必要があることを研修を通して感じました。

一昨年からCSの学校のコーディネーターになり、地域の方々の活動を初めて知りました。今日の研修会に参加して、講師の話や協議の中での様々な立場からの意見を聞いて大変勉強になりました。

「まず、出来ることから何かしよう！」という言葉に実践意欲がわきました。学校運営協議会に課題解決の方法を諮ること、学校運営協議会と教職員の議論の大切さなどが分かりました。深い学びをありがとうございました。

<教育行政の方の感想>

○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、その違いや、ともに活動していくことの大切さがよく分かりました。

○現在進行形のコミュニティ・スクールを子ども達の課題（学校課題）にコミットした取組の充実に努めていきたいと思いました。そのためには、学校教育と社会教育をつなげ、別府市の教育課題の解決に向け、少しずつでも取組を進めていくことが出来ればと感じました。

○首長部局との連携というところはヒントになりました。長年コミュニティ・スクールを導入している学校があるので、そこで取組を1つでも伝えることができればと思います。

○全ては子どものために、我々大人がとらわれることなく真剣に考え、実行することが大切だと感じました。

○とてもわかりやすい講話でした。この推進事業に関わる者の多くは本当の意味でこの事業のことを理解できていないのではと思われます。関わる者同士の本音で語り合う対話が必要と思います。

○実践発表はそれぞれの実態に応じて工夫された内容でした。学校・地域・御製の役割について改めて考えさせられました。また、活動を行う上ではスピードと有効性が必要であると感じました。そのためにも仕組みを整えることや、人材の確保をしていかななくてはならないと思います。本日の研修会、ありがとうございました。